

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第22週の発生動向

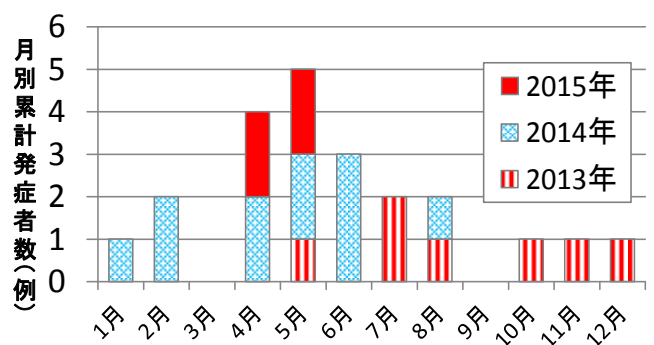
トピックス

・重症熱性血小板減少症候群(SFTS) (全数報告の感染症)の届出が延岡保健所から1例あった。県内での報告は今年4例目、累計23例目となった。患者は60歳代女性で、5月上旬に発症した。ダニの刺し口があり、海外渡航歴はなかった。

県内のSFTS 年齢別報告数 (例)

～40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代～
1	2	6	6	7	1

県内のSFTS月別発症者数 (届出開始以降)



全数報告の感染症 (22週までに新たに届出のあったもの)

- 1類感染症：報告なし。2類感染症：結核9例。3類感染症：報告なし。
- 4類感染症：重症熱性血小板減少症候群1例、日本紅斑熱1例。
- 5類感染症：後天性免疫不全症候群1例、梅毒1例、破傷風1例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・病名	症状等
2類	結核	宮崎市	60歳代	男	無症状病原体保有者	—
			70歳代	女	無症状病原体保有者	—
			70歳代	男	結核性胸膜炎	発熱、全身倦怠感
			70歳代	男	脊椎	発熱、腰痛
			80歳代	女	肺結核	症状なし
		都城	80歳代	男	結核性胸膜炎	胸痛
		高千穂	80歳代	男	疑似症患者	発熱
		日向	70歳代	男	肺結核	咳、痰
中央	80歳代	女	肺結核	症状なし		
4類	重症熱性血小板減少症候群	延岡	60歳代	女	—	発熱、頭痛、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、リンパ節腫脹、刺し口
	日本紅斑熱	宮崎市	50歳代	男	—	発熱、頭痛、刺し口、発疹
5類	後天性免疫不全症候群	宮崎市	40歳代	男	無症候性キャリア	—
	梅毒	延岡	30歳代	男	早期顕性梅毒(I期)	初期硬結
	破傷風	宮崎市	60歳代	女	—	筋肉のこわばり、開口障害、発語障害 破傷風ワクチン接種歴：なし

□ 定点把握の対象となる5類感染症

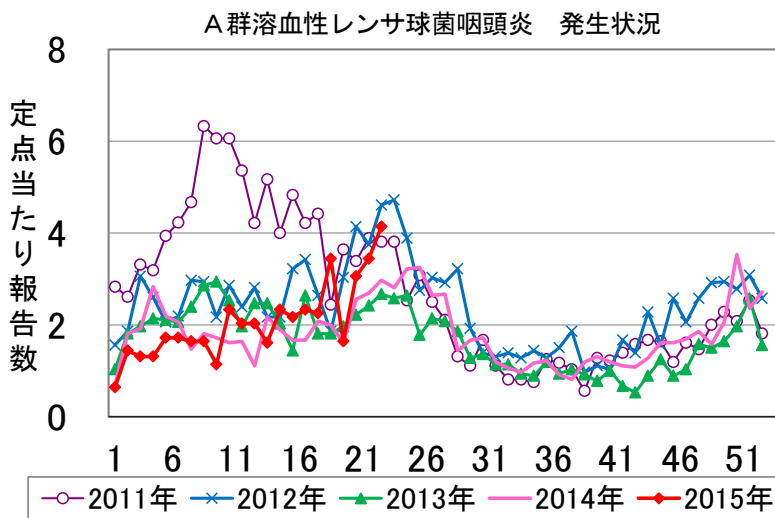
・定点医療機関からの報告総数は915人（定点当たり27.3）で、前週比98%とほぼ横ばいであった。前週に比べ増加した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で、減少した主な疾患は咽頭結膜熱と感染性胃腸炎であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

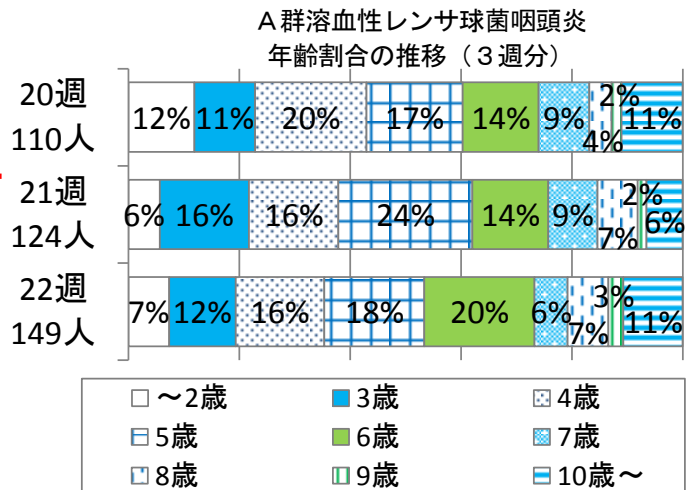
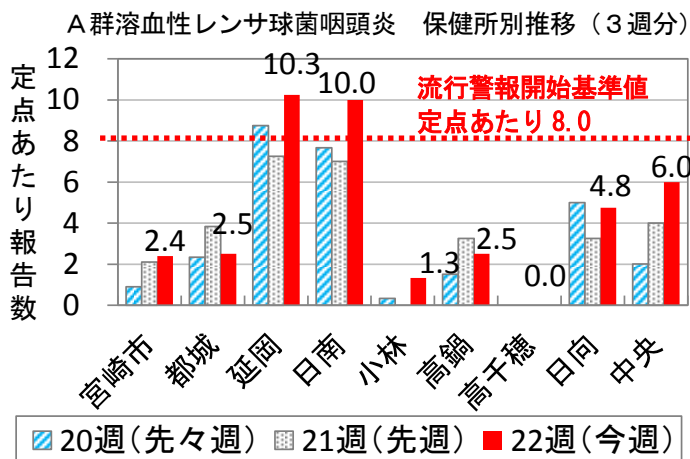
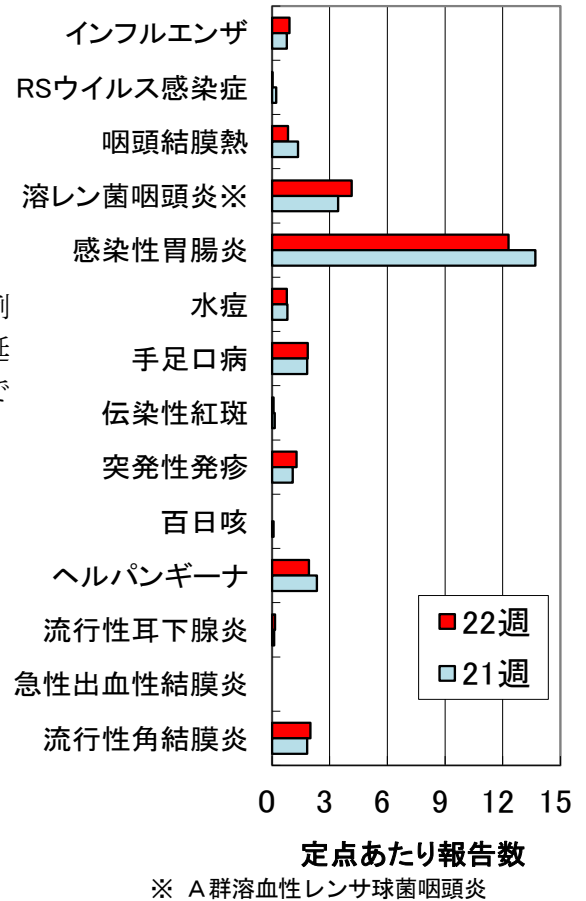
【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

・報告数は149人（4.1）で、前週比120%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*（3.1）の約1.4倍と多い。延岡（10.3）、日南（10.0）保健所からの報告が多く、年齢別では4～6歳が全体の約半数を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週（計15週）の平均値

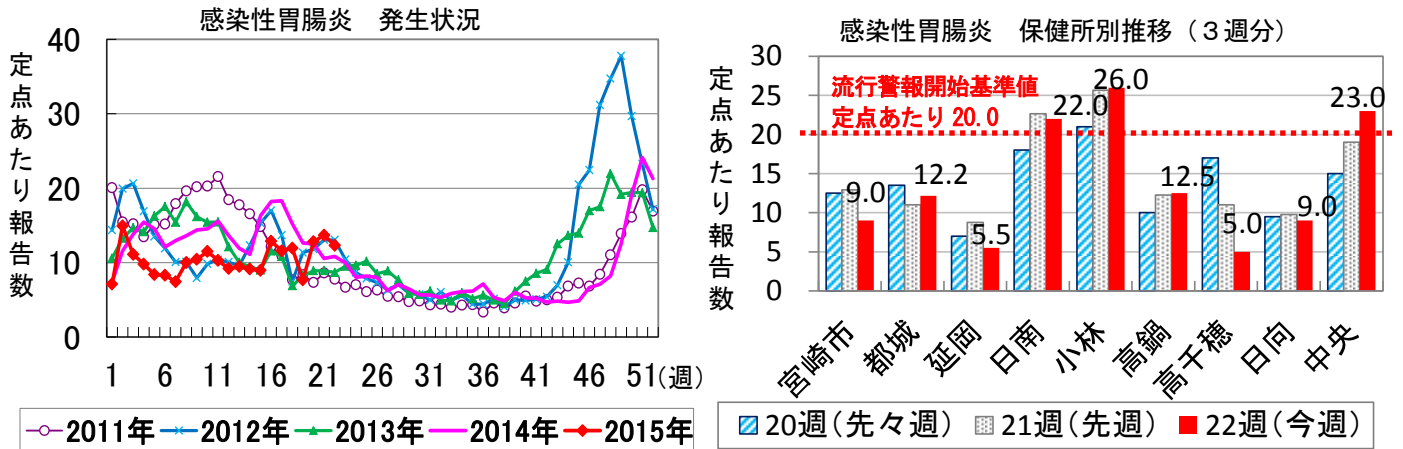


《前週との比較》



【感染性胃腸炎】

・報告数は443人(12.3)で、前週比90%と減少した。例年同時期の定点あたり平均値*(9.9)の約1.2倍と多い。小林(26.0)、中央(23.0)、日南(22.0)保健所からの報告が多く、年齢別では1~4歳が全体の約半数を占めた。



★流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(10.3)、ヘルパンギーナ(7.5)
日南	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(10.0)、感染性胃腸炎(22.0)
小林	感染性胃腸炎(26.0)
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	咽頭結膜熱(3.0)、感染性胃腸炎(23.0)、手足口病(7.0)

＊流行警報レベル開始基準値＊

- ・咽頭結膜熱(3.0)
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(8.0)
- ・感染性胃腸炎(20.0)
- ・手足口病(5.0)
- ・ヘルパンギーナ(6.0)

★基幹定点からの報告★

○感染性胃腸炎 (ロタウイルス)

高鍋保健所管内で7例報告された。0~4歳が6例、50歳代が1例で、病原体の群別不明。

□ 病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成27年6月1日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
EAggEC(O111:H21)	20歳代	女	2015.5.12	粘血便	便	2015.5.26
<i>Ignatzschineria indica</i> suspect	60歳代	男	2015.5.8	敗血症、蜂窩織炎	血液	2015.5.20

敗血症を呈した60代後半の男性の血液から、*Ignatzschineria indica* 疑いの菌が検出された。この菌は、2011年にハエの腸管内に存在することが報告されているが、症例の報告が少なく生化学性状などは不明な点が多い。ヒトへの感染例としては、類縁菌の *Ignatzschineria larvae* において、糖尿病性の潰瘍や外傷性の傷へうじ虫が寄生し敗血症を呈した事例が報告されている。今後、報告数が増えれば、より詳細な菌の性状なども明らかになるものと思われる。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	検出日
エコーウイルス3型	0～4歳	女	2015.4.14	エンテロウイルス疑い、38.7℃、紅斑	咽頭ぬぐい液	2015.5.20
エコーウイルス3型	0～4歳	男	2015.5.7	エンテロウイルス感染症、39.7℃、発疹	咽頭ぬぐい液	2015.6.1
エコーウイルス3型	0～4歳	男	2015.4.27	りんご病疑い、39.1℃、紅斑	咽頭ぬぐい液	2015.5.25
コクサッキーウイルスA9型	0～4歳	男	2015.4.17	風疹疑い、38.5℃、上気道炎、発疹、リンパ節腫脹	咽頭ぬぐい液	2015.5.20

エンテロウイルス疑いの乳児2名と伝染性紅斑(りんご病)疑いの乳児1名からエコーウイルス3型が分離された。また、風疹疑いの乳児からコクサッキーウイルスA9型が分離された。エンテロウイルスは小児において夏季に流行する感染症である。今回、エコーウイルス3型が分離された3名中2名はりんご病様の発疹(紅斑)がみられている。りんご病は主に小児を中心にしてみられる発疹性疾患であり、また妊婦が感染すると流産や胎児性水腫を起こすことがある。全国では手足口病とりんご病の増加が例年より早くみられており、宮崎県でも今後増加する可能性があるため今後の発生動向に注意が必要である。

✚ 全国第21週の発生動向

□ 全数報告の感染症(全国第21週)

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	355例				
3類感染症	細菌性赤痢	3例	腸管出血性大腸菌感染症	68例	腸チフス	1例
4類感染症	E型肝炎	3例	A型肝炎	2例	重症熱性血小板減少症候群	3例
	チクングニア熱	1例	つつが虫病	6例	デング熱	7例
	日本紅斑熱	7例	ブルセラ症	1例	マラリア	1例
	ライム病	1例	レジオネラ症	15例		
5類感染症	アメーバ赤痢	11例	ウイルス性肝炎	1例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	18例
	急性脳炎	3例	クロイツフェルト・ヤコブ病	3例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5例
	後天性免疫不全症候群	17例	ジアルジア症	1例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症	38例	水痘(入院例)	3例
	梅毒	37例	播種性クリプトコックス症	1例	破傷風	2例
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1例	風しん	6例	麻しん	1例
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	4例				

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比105%とやや増加した。前週と比較して増加した主な疾患は手足口病とヘルパンギーナで、減少した主な疾患はインフルエンザと水痘であった。

手足口病の報告数は5,255人(1.7)で前週比155%と増加し、例年同時期の定点当たり平均値*(0.68)の約2.5倍と多い。徳島県(8.1)、鳥取県(5.8)、香川県(5.6)からの報告が多く、年齢別では1～2歳が全体の約6割を占めた。

ヘルパンギーナの報告数は989人(0.31)で前週比163%と増加し、例年同時期の定点当たり平均値*(0.33)の約0.9倍であった。宮崎県(2.3)、愛媛県(1.6)からの報告が多く、年齢別では1～2歳が全体の約半数を占めた。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2015年 第22週(5月25日～5月31日)

疾病名		第21週	第22週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	46	54	1	29		1	16		3	4	
	定点あたり	0.78	0.92	0.06	2.90	0.00	0.20	3.20	0.00	1.50	0.67	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	8	1								1	
	定点あたり	0.22	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
咽頭結膜熱	報告数	49	30	5	4	8	5		1		4	3
	定点あたり	1.36	0.83	0.50	0.67	2.00	1.67	0.00	0.25	0.00	1.00	3.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	124	149	24	15	41	30	4	10		19	6
	定点あたり	3.44	4.14	2.40	2.50	10.25	10.00	1.33	2.50	0.00	4.75	6.00
感染性胃腸炎	報告数	493	443	90	73	22	66	78	50	5	36	23
	定点あたり	13.69	12.31	9.00	12.17	5.50	22.00	26.00	12.50	5.00	9.00	23.00
水痘	報告数	29	28	14	2	6	1		1		3	1
	定点あたり	0.81	0.78	1.40	0.33	1.50	0.33	0.00	0.25	0.00	0.75	1.00
手足口病	報告数	66	67	19	5	2	10	6	11	1	6	7
	定点あたり	1.83	1.86	1.90	0.83	0.50	3.33	2.00	2.75	1.00	1.50	7.00
伝染性紅斑	報告数	5	3	1			1				1	
	定点あたり	0.14	0.08	0.10	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
突発性発しん	報告数	39	46	12	4	14	4	3	3		5	1
	定点あたり	1.08	1.28	1.20	0.67	3.50	1.33	1.00	0.75	0.00	1.25	1.00
百日咳	報告数	3										
	定点あたり	0.08	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	84	69	8	3	30	7	1			19	1
	定点あたり	2.33	1.92	0.80	0.50	7.50	2.33	0.33	0.00	0.00	4.75	1.00
流行性耳下腺炎	報告数	4	6			3		1			2	
	定点あたり	0.11	0.17	0.00	0.00	0.75	0.00	0.33	0.00	0.00	0.50	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	11	12	9	3							
	定点あたり	1.83	2.00	3.00	1.50	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数		7						7			
	定点あたり	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	7.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2015年第1週～22週)

2類感染症	結核	92例(9)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	7例				
4類感染症	A型肝炎	2例	重症熱性血小板減少症候群	4例(1)	つつが虫病	3例
	日本紅斑熱	3例(1)	マラリア	1例	レジオネラ症	1例
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	ウイルス性肝炎	3例	急性脳炎	2例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3例	後天性免疫不全症候群	4例(1)
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症	2例	水痘(入院例)	1例
	梅毒	3例(1)	播種性クリプトコックス症	2例	破傷風	4例(1)

()内は今週届出分、再掲